



挨拶の魔法の力に気付かされて

日出学園中学校 二年 石川 華蓮

「どうして朝の登校の見回り活動をしているの？」

私が祖父に聞いた質問。私の祖父は、私が小学校に入学してから、夏の暑い日も冬の寒い日も雨の日も風の日も、毎日朝の登校の見回り活動をしている。そして、私が小学校を卒業した今でも。

小学校低学年の頃は、他の友達も、親や祖父母と一緒に登校していたため、何も感じなかった。しかし、学年が上がるにつれて、親や祖父母と一緒に登校する友達がだんだんと少なくなってきた。

そこで、「もう来なくていいよ」と祖父に告げたが、祖父はその声を聞かず、朝の登校の見回り活動を続けた。登校中、ずっと私の隣を歩いていたわけではないが、次第に恥ずかしさを感じることがなくなり、

「何で嫌がってるのに、いつも来るの？もう来ないで！」と強い口調で言ってしまった。すると、祖父は、

「挨拶を交わすことでみんなの心が明るくなる。一日を気持ちよくスタートすることができるのだよ。前の日に、友達とけんかをしてしまったときも、次の日の朝『おはよう』と声を掛けるだけで自然と仲直りできたことがあったら？」と教えてくれた。

私は、その言葉を聞いてハッとした。祖父母や両親が、毎朝明るく挨拶してくれることで、毎日明るく、楽しい気持ちで学校に行けていたこと、一日の初めに友達と交わす言葉は「おはよう」の挨拶であり、その挨拶がきっかけで、楽しい会話をしながら登校できたことに気付いたからだ。また、前の日に少しけんか気味になってしまった友達に、気まずいなと思いつつ、

勇気を出して、「おはよう」と挨拶をする、笑顔で「おはよう」と返してくれて、いつものように楽しい会話が弾んでいたことも思い出された。

挨拶は、人と繋がることのできる魔法の言葉であることがわかった。そして、それ以来、挨拶を常に心掛けている。

私が中学生になって一年以上経った今でも、祖父は朝の登校の見回り活動をしている。

今になって、祖父が登校時に見守りを続けてくれたおかげで、私や友達が安全に登校でき、祖父のように自分の時間を使って町を見回りしてくれる人がいるため、地域の安全が守られていることがやっとわかった。私は、祖父が元氣のない児童に優しく挨拶をして、話すきっかけを作り、寄り添いながら登校したことで、その児童は元氣を取り戻して正門をくぐったことを覚えてる。祖父は、社会みんなが明るく健やかに生きていくために大事なことを数多く学ばせてくれたのだ。

私は、挨拶の大切さを自らの体で示しながら、地域の安全も守ってあげている祖父を心から誇りに思う。

最後におじいちゃんへ。「挨拶の魔法の力を教えてくれてあ

りがとう。毎日、朝の登校の見回り活動が続けてくれてありがとう。私も、明るい社会を築いていく一員として、心を開く挨拶を心掛け、挨拶の輪を広げていくよ。挨拶は、人の心と心を繋ぐ魔法の言葉なんだね！」